

タウンミーティング（禎瑞校区） 開催報告

- 日 時 令和元年 6 月 22 日（土） 午前 10 時から
- 場 所 禎瑞公民館 2 階ホール
- 参加者 禎瑞地区連合自治会長、上組・中組・下組・八幡・高丸自治会長、
禎瑞共楽会長、禎瑞小学校 PTA 会長、禎瑞生産組合副会長、
禎瑞防災士会長、禎瑞分団長、社会福祉協議会禎瑞支部長
市長 経営戦略部長、危機管理監、危機管理課長、
地域防災アドバイザー、シティプロモーション推進課長
- 傍聴者 7 人
- 次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（禎瑞地区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 参加者自己紹介
 - 5 市の主要事業について
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 6 地域課題①「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経過等内容説明（地域防災アドバイザー）
 - 7 地域課題②「緊急時、避難をどうするか」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明（禎瑞地区連合自治会長）
 - (2) 意見交換
 - 8 その他
 - 9 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（禎瑞地区連合自治会長）

○会議録

1 挨拶

【禎瑞地区連合自治会長】

皆さん、こんにちは。今日はお忙しい中、ご出席感謝する。このタウンミーティングは西条市と自治会が主体となり話し合いを行うことにより、よりよい地域づくりを進めていくのが目的となっている。今日は市長に来ていただき、今の市の現状と今後の市政方針などをお聞かせいただいた後に、先日各代表者の方に禎瑞の課題や要望等を提出していただいたが、その中で禎瑞地区の防災対策と緊急避難時にどうするかを話し合っていきたい。時間に限りがあるが円滑に進めていきたいのでよろしくお願ひしたい。

【市長】

皆さん、今日はお忙しい中、地域の代表の皆さんに集まていただきタウンミーティングがスタートできることを有難く、うれしく思う。昨年度は、やり方を模索しながらやってみた。令和元年度、スタートは禎瑞から。連合会長が言ったように地域の課題を行政が受け止め、行政が今考えていることをディスカッションしながら、禎瑞地区に住んで良かった、住み続けたいと思われるようなまちづくり、西条市づくりに努めていきたい。時代が変わり、財政が豊かな時には、皆さんの声をすぐに政策でお返しができる時代もあったがそれが難しくなってきた。工夫が必要になる。あれもこれもから、あれかこれかへの選択。今までは少ない負担で高福祉だったが、少し負担をしていただきサービスが少し落ちるかもしれないがサービスを開始していく。市民の皆さんと行政がしっかり協働のまちづくりをしていかないと、私たちから子どもたちへ、子どもたちから孫へと持続可能なまちづくりができなくなってくる時代。何とか工夫をしながらまちづくりを進めていきたい。限られた時間ではあるが有意義なひと時にしたい。忌憚のない意見を頂戴したい。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】(参照別紙資料)

3 地域課題①「地域防災対策」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【地域防災アドバイザー】(参照別紙資料)

4 地域課題②「緊急時、避難をどうするか」について

(1) 地域からの提案説明

【禎瑞地区自治会長】

禎瑞地区は海拔0メートルであり、それ以下のところも多々ある。以前は、台風や大雨が降ると田んぼは冠水し床下浸水していた。津波などが発生すると避難場所は禎瑞小学校になっている。しかし、禎瑞小学校もかなり海拔が低く、氷見や橘などに逃げればいいのではないかという意見もある。禎瑞でどういったふうに避難するかという話は煮詰まっていない。これから皆さんと話し合いをし、緊急時の避難をどうするかをテーマに考えていきたい。避難としては、市にもお願いしなければならないが、禎瑞地区の住民がどうしたらいいのかを話し合って意識づくりをしていきたい。皆さんの知恵をお借りできたらと思う。

(2) 意見交換

【参加者】

禎瑞で一番大事なものは堤防である。災害は色々あるが、堤防に亀裂が入り決壊したら5分、10分で逃げなくてはならない。まずは、堤防の点検が一番大事である。大水の時、ポンプ場がフルに回転すれば、かなりの部分で被害はでないであろう。心配なのは、JRの架線の下を3メートルから6メートルに広げたことだ。川上の地域は浸水しなくなったが、禎瑞にはその水が一気に流れてくる。川上の地域が良くなったら川下の地域が悪くなるのはおかしい。川上が良くなるのであれば、川下も良くなるか、現状維持でないとならない。川下にだけしわ寄せがくるのではいけない。JRの架線の下を広げるときに、「禎瑞は関係ない」、「加茂川左岸のポンプで水を全部回収できる」、「川下の方には迷惑かけない」と言われた。この話は、自治会は知らず、事前説明もなかった。当時、議員だった私が意見を言ったが、すでに改良区に説明に行ったりして、広げる話が進んでいた。改良区は禎瑞の区域外なので権利がなく、置いてきぼりにされた。

去年の台風の時、私は左岸のポンプ場にいたが、水の量が今までより多いと感じた。左岸のポンプで水を全部くみ取ることにはできない。一番の心配は、16年の台風の時のようにポンプ場自身が浸水すること。

話が元に戻るが、地震の時は、堤防の点検が一番大切である。地震が干潮時なら対応できる可能性も十分あるが、満潮時にくれば手の施しようがないので、何らかの対策を考えておく必要がある。逃げるところについて、例えば難波の公園に逃げれば津波含めて助かるのか。下組も集会所、堤防に逃げて助かるのか。津波を含めてどのような状況か教えて欲しい。

【危機管理課長】

津波の場合、浸水区域外に逃げただけのが第一条件である。干潮時で水が入ってこない状況であれば本格的な津波がやってくる約3時間半の間に、浸水エリア外の西部公園や、禎瑞と事前に協定を結ばれた石鎚神社の方に避難をされるのが一番よい。しかし、地震の揺れで緊急的に水が入ってくるとも思うが、そのような場合は、なるべく高い所へ逃げて欲しい。例えば、禎瑞下組集会所、難波集会所のあたりや、避難を待つ体制で小学校の2階以上に逃げて欲しい。

【市長】

これは、地域の皆さんと避難についての確認ができているかどうかである。難波、高丸、禎瑞上では状況が違う。それぞれの地域同士で安心が本当にエビデンスに基づいて届けてい

るのか。届けたうえで避難計画やタイムラインを計画していただくということになっていく。市民の皆さんにまず安心を、そして行動計画になってくる。このところは、ひざ詰めですっかり確認しておく。今日出席の人だけではいけない。ここを十分丁寧に説明していく。

【地域防災アドバイザー】

マイ・タイムラインの説明会は各単位自治会で行っていく予定であり、6月27日から飯岡地区で始まっていく。それぞれの子部落や団体の方に対して必要な質問事項を基にそれに対する提案をもって説明に伺う。申し込んで頂けたら対応していく。

【市長】

避難場所が浸水域で大丈夫なのか。避難時、禎瑞小学校まで逃げることができるのか。

【参加者】

小学校まで逃げるのは無理である。

【市長】

時間がある時、校舎の上まで逃げれば助かる。しかし、校舎まで逃げて来ることができるか。あと、心理的に水が来ているときに中山川の橋の付近を通る勇気があるか。禎瑞下組の集会所は高い位置にあるが川尻であるので避難しに来ることができるか。

【参加者】

横で水が流れていたら、足がすくんでしまう。

【市長】

実際は訓練以上のことはできないので平時の訓練が大切である。堤が壊れなかったら大丈夫なので悪い箇所は早急に伝えて欲しい。我々から働きかけ国、県にしっかり要望する。

【参加者】

昔、台風があったとき、龍神社の堤防がまだ石だったので、波で堤防の石が崩れた。その時は、松の木を切って石の崩れたところへ倒し、紐でくくって事なきを得た。その後、一回目のコンクリート整備で堤防の外を整備した。しかし、満潮時にコンクリートの堤防を打ち付けた波が乗り越えてきた。土のうも積んだが意味がなく、堤防の砂まで落ちてきたので集会所の畳を立て、稲木で畳を支え潮が引いて収まるのを待った。そこでコンクリートが低いということになり、コンクリートを足した。

二ヶ月くらい前に、高丸の堤防のコンクリートの下に石がぶち当たって穴が開いたので、自治会長に連絡し市に報告した。

【地域防災アドバイザー】

要望事項に出ているので高丸の堤防についてはこの後、説明する。

【参加者】

中山川の堤防と加茂川の堤防の振動検査をしているが、その結果、悪い場所が判明して対応するべく協議をしているのか。振動検査の内容は市にも届いているのか。中山川の堤防が破損している箇所の修復を検討しているのか。

【参加者】

コンクリートを直してもらわないと台風が来たとき危ない。

【市長】

申し訳ない。今の質問の状況について本日は答えられない。検査以降すべての皆さんに答える。

【参加者】

両岸とも検査は済んでいるのか。

【市長】

主に県の担当になる。

【参加者】

市もしっかり対応して欲しい。

【参加者】

台風までにしてもらわないと困る。

【参加者】

嘉母神社の前の堤防沿いに桜の木があるが台風、満潮時の木の揺れを調べてほしい。木の揺れで石垣が崩れないか心配である。

【市長】

堤、河川については、県が対応していくが、市も現状と対応を示していきたい。

【参加者】

いろんな要因が重なるので全てに耐えうる堤防を人為的に作るのは無理である。学校で親御さんには、まず避難と言っている。急いで避難しなければならない状況の時、避難場所まで車を使って逃げると思う。その場合、水が来ているのに渋滞につかまることも想定できる。みんなが逃げる道が渋滞になってはならないので、どのように避難するかをもっと密に話していかなければならない。禎瑞の皆さんが避難経路、避難方法について話し合う必要がある。

【市長】

言われた通り、想定を超える災害があったとき、強固な堤防といいながらも超えてしまうこともある。禎瑞小学校の子どもたちを預かっている教員が、釜石市の奇跡のようにどう子どもたちを逃がすコースを作っているかが大切である。このケースの場合には、どの経路を使ってどこへ逃げるかの訓練が必要である。学校に残るのも一つの方法である。学校からどの道を使って逃げるのかというリアルな訓練が必要である。教育委員会がしっかりして、学校だけの避難に留まらないことを想定しながら考えていきたい。

【参加者】

緊急の場合、車で逃げると思うが、禎瑞地区は埋め立てなので液状化や、家屋の倒壊の危険がある。災害が起こった時、禎瑞地区は、加茂川、中山川に囲まれており危険なので、最初は、自分の命は自分で守って欲しい。禎瑞区域が浸水した場合どうすることもできない。陸の孤島になってしまうので一人ひとりが、素早く逃げることを考えてほしい。

【参加者】

台風の雨風で外に出られない状況の時、防災無線で避難の伝達はできるが、各家庭に伝えることができるのか。各家庭に伝えることができなかつたら意味がない。

【参加者】

夜中に台風が来た時、雨戸を締め切っており避難の連絡が聞こえないと思う。避難の連絡は、消防か危機管理課からあるのか。

【危機管理課長】

防災無線で避難の放送は入れる。様々な事情で聞こえない場合があると思うが、各家庭に情報をくまなく流す方法はない。補完するものとして、メール配信システム、テレビのDボタンなど、避難情報が分かる仕組みができていく。マイ・タイムラインで夜中に加茂川が決壊しそうな場合にそれぞれが避難行動を決めておく必要がある。台風が来たとき、警報が出る前のはこうしておく警報が出たらこうしておくというマイ・タイムラインを決めておき、テレビをつけて状況を確認できるようにするなどして欲しい。

【地域防災アドバイザー】

今、警報級の現象が予想される期間の6時間前に警報を発表することを目指している。警報が出そうなきも情報を出している。どんなことをやっているのかの情報を提供していく。

【市長】

本当に流せなかったときに責任問題にならないように防災無線だけでなく多重に情報を拾うことができるように考えている。例えば、宇和島では、各家庭にラジオがあり、スイッチが入ってなくても緊急時にはスイッチが入るようになっている。あらかじめ予測ができる災害は、自ら情報を仕入れてほしい。行政も対応するが、市民の皆さんも情報を自ら取りに言って欲しい。行政任せでは限界がある。消防団も家族がいるので、自らの命を大切にしたい。私が防災無線で言うより、自治会長などが近所の人に「逃げるよ」と言う方が、リアルで逃げただけ。

【参加者】

禎瑞の住民がどうやって逃げるかが問題である。避難経路が確保されているか。堤防を強

化するなど避難経路を踏まえた整備をしていって欲しい。また、以前、上組の排水システムが故障したので自動排水の基準を早めてほしい。台風が来そうだとわかるのだったら極端な話事前に空にしておけば想定外のことがあってもある程度時間を稼げるのではないか。ポンプ場は市にお願いしている。堤防は県に市の方からも上げていってもらう。今できる予防をして欲しい。避難の体制は、ある程度、地域の代表者に事前に早く各地域にできないのか。

【市長】

排水機能は、1時間当たり40mmで計算していたが、見直しを図ろうとしている。ダムの方流基準を変えて、早めに流すようにしたい。

【危機管理課長】

風水害の避難時間の関係だが、大雨が降りそうなとき、ダムが最大放流量に達する前に避難を出している。

【参加者】

防災などの資料をいただいているが、やり方や対応が劇的に変わってない。変わっている実感がない。ハード面の整備は進めていってほしい。まずは、お年寄りやお子さんいる家庭など個々を考える時代に来ている。災害にあった方の生の声を聴く機会が必要である。個人個人の災害に対する意識レベルを上げていくべきである。

【参加者】

禎瑞校区の防災訓練が11月24日にある。今回言っていたような訓練をしたい。訓練なので、実際にやってないと意味がない。

【市長】

結局、受け売りになってしまう。今日をきっかけに小さな単位で災害時どうするかという話に落とし込まないと、現実的な話にならない。命を助けるためにどうするか置き換えてやっていく必要がある。市もサポートしていく。

【参加者】

災害に対する意識が低い。逃げるときにはどうしていったらいいのかを詰めていきたい。

【市長】

行政は情報を発信しているが、実際避難している人が1割未満と少ない。

今日は、地域の代表者に課題提起をしていただいたが、ここからが大事である。失う命がないように訓練で終わらせないようにして欲しい。

5 その他（地区における課題及び要望に対する回答）

【シティプロモーション推進課長】（参照別紙資料）

【参加者】

公民館のエレベーター設置基準は、どこの基準なのか。公民館の利用者が少ないのはわかるが、高齢者には必要である。

【参加者】

階段が上がれなく、二階で開催される会に出席できない人が増えてきた。

【市長】

今後、総合支所の機能を薄めていき、公民館の機能を上げていきたい。公民館に足を運んでもらうようにしたい。

6 まとめ・閉会

【市長】

皆さんの声は市政発展のため非常に重要である。拾えるものは拾っていき、拾えないものは拾えないと言っていく。よりよい西条にするに、どうしたらいいか、職員にも考えるように言っている。行政だけでは対応できないので、市民の皆さんと共同でやっていく。市民の皆さんと行政が信頼関係を結んでおくことが必要である。引き続きよろしくお願ひしたい。本日はお礼申しあげる。

【禎瑞地区自治会長】

本日はお礼申しあげる。禎瑞住民全員が災害に対しての認識が薄かった。各自治会単位で緊急時の対応を末端まで進めていきたい。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

